



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

このたびの地震により被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

被災された地域の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さいたま市介護支援専門員協会 会員一同

浦和区・南区・緑区合同ケアマネサロン

「デイサービスの情報・意見交換会」

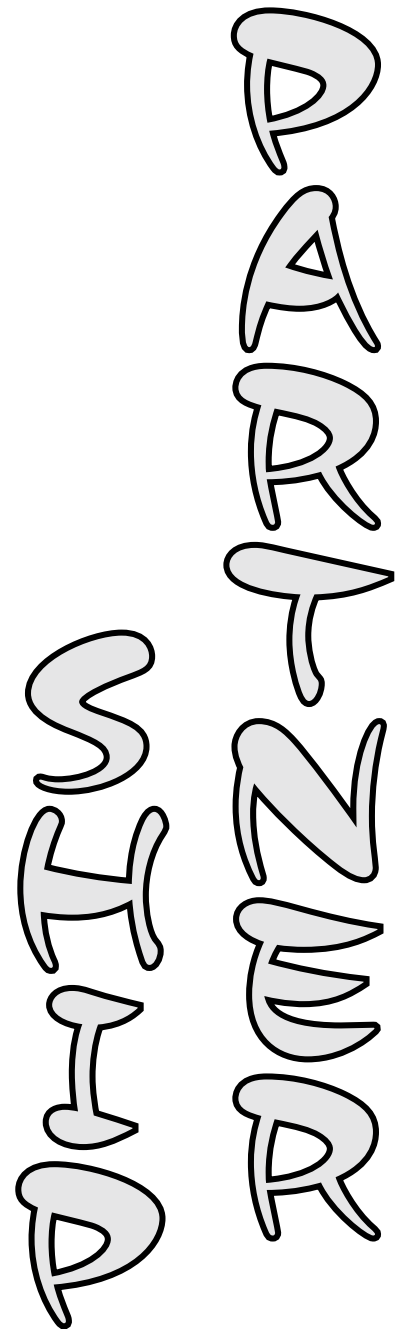
開催日時 平成22年12月16日(木) 14時00分～16時00分
開催場所 浦和コミュニティセンター 第15会議室

さいたま市では、多種多様なデイサービス施設が増えている。介護支援専門員としては、ご利用者に合ったデイサービスを選択するためにも、各デイサービスの特色を把握しておく必要があると考え、今回の合同ケアマネサロンでは、デイサービス事業者との情報交換・意見交換を行なうこととなった。介護支援専門員32名、デイサービス事業者26施設に参加していただいた。

第1部では、ニチイケアセンター上木崎の沢目誠氏よりご講義いただき、「デイサービス相談員ネットワーク『うさぎのタマゴ』」の会を広め、地域のデイサービス同士で交流を深めて、お互いのスキルアップ、さらには地域貢献にも努めていきたい」と今後の活躍が楽しみとなるお話をいただいた。

第2部では、事前に3区内のデイサービス施設に、「送迎範囲・営業日・利用時間・専門職の有無・入浴の種類・対応できる医療行為・食費等の費用・特色」等についてのアンケートを送付し、それをもとに資料を作成。当日は、各デイサービス事業者よりアピールポイントを発表していただいた。その後はフリータイムとし、集団見合方式でケアマネジャーと各サービス事業者で情報・意見交換を行ない、会場は熱気にあふれ、大変盛り上がった。

今回のサロンでは、ひとつの会場で多くのデイサービス事業者と直接お話しする機会が持て、各デイサービスの特色を知ることができ、ご利用者に合ったデイサービスを見つける知識を深める上で、大変有意義なサロンとなった。



Vol.22

2011年春号

岩槻区ケアマネサロン

「成年後見制度について」

開催日時 平成23年1月19日(水)

18時30分～20時00分

開催場所 岩槻区本丸公民館

今回は、岩槻法務司法書士事務所の司法書士 森崎秀樹氏を講師としてお招きし、成年後見制度についてご講義いただいた。

参加者は岩槻区会員と他区の会員にもお越しいただき、15名であった。

認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方々を法律面や生活面で支援するのが成年後見制度である。

判断能力が衰えてから申し立てをする法定後見制度と、将来判断能力が不十分になったときに備えて、自らが選んだ代理人と契約を結ぶ任意後見制度がある。

森崎氏が成年後見人として関わったいくつかの事例の中から、ここでは任意後見制度での支援の事例について説明する。

身寄りがなく、老人ホームに入所したい希望があるが、身体の問題から、預貯金の出し入れが困難で入所の希望が叶わなかったケースでは、

①現時点での財産管理契約。

②判断能力が衰えた場合に備えて任意後見契約を締結。

③死後の財産の帰属先を遺言にて指定し、司法書士を遺言執行者とした。司法書士と財産管理契約を結んだこ

大宮区ケアマネサロン

「訪問看護ステーションとの連携」

開催日時 平成23年1月19日(水) 15時00分～16時30分

開催場所 (財)さいたま市在宅ケアサービス公社大宮センター 2階 A会議室

今年度のテーマ「サービスマネジメントの情報交換と連携」に基づき、第3回目は、訪問看護ステーションの方々をお招きした。参加者は訪問看護師4名(4事業所)、訪問マツサージ所長1名、ケアマネジャー4名(4事業所)であった。

まずは、大宮訪問看護ステーション所長 知崎氏より、訪問看護ステーションの利用者は重度化し、短期利用が増えている傾向にあること、なかには、訪問看護師が入ったことにより、今までの生活の波を乱してしまうケースもあるので、ケアマネジャーが訪問看護について思っていることを知りたいとのことだった。

それに対し、ケアマネジャーからは「訪問看護を勧めても、通院できているから大丈夫と家族に言われてしまうと、サービスマネジメントに繋がらなくなってしまう。」「訪問看護で清拭を計画しても、訪問前に便失禁があつて、家族が既に清拭を終え、看護師が来たときには仕事が無かつたり、本人が、体調次第で勝手にキャンセルして、定期的な利用にならないことがあつた。」「どういう場合に訪問看護を頼めば良いか、よくわからない。」「という意見が出された。

これを受けて、訪問看護師からは、以下のアドバイスがあつた。

「ヘルパーと比べ、援助内容が見えにくいので、家族がどう訪問看護を使いこなせるかが問題になってくる。」「一般の人々には、訪問看護のイメージが浮かびにくい。我々のアピール不足ではないか?」「何か一つ、一番困っていることを教えてくれれば、それを突破口に、いろいろなケアに繋がっていくことができる。きっかけとしては、医療処置や退院直後が入りやすいと思う。」「訪問看護は、バ

イタルを測るだけでなく、家族の指導をしたり、体調の変化の予兆をして、良い方向に持っていくことができる。」「ヘルパーは、時間内に一杯の仕事があり忙しいが、それに比べ、ケア中にもコミュニケーションがとれるのが、訪問看護の特権だと思う。」「一度始めたら、ずっと入るといって考えでなく、状態が改善したらやめる事もできる。とりあえず、どうかかなと思つた時は、一回行ってみるといふことにして、そこで必要かどうか判断しても良いと思う。気軽に声をかけて欲しい。」「

また、「国はケアマネジャーに医療知識を求めているが、サービスマネジメントで意見を共有できれば、問題ないと思う。そのためにこそ、サービスマネジメントだと思ふ。」「と、会議の重要性が強調された。

次は、各訪問看護ステーションより、事例が紹介された。訪問時には床ずれが重症になっていたケース、病状改善のために短期間のみケアしたケース、認知症の進んでいる方、生活改善につながったケースの説明があり、具体的にどんな場合に訪問看護をお願いできるか、参考になった。医療知識のない自分にとって、訪問看護の依頼は苦手であるが、今回、訪問看護師の方々から、ケアマネジャーに対して、温かい手が差し伸べられていることを感じた。



とにより、ホームへの入所が可能となった。数年後、本人は死亡。司法書士は遺言を執行し、遺産継承の手続きを完了した。

任意後見契約との併用で、判断能力があるうちから財産管理を委任する「財産管理契約」や定期的な面会して無事であることを確認する「見守り契約」延命治療を拒否する旨を明らかにしておく「尊厳死宣言」 死後の財産処分方法や相続分の指定などを決めておく「遺言」等の契約を結ぶ事ができる。他にも、制度の説明や、民生委員と連携をとった事例をお話いただいた。

認知症がある独居の高齢者も増えてきており、私たちケアマネジャーも制度について認識しておく必要があると感じた。



中央区・桜区合同ケアマネサロン

「教えて！ショートステイ」

開催日時 平成23年2月19日（土） 13時30分～15時30分
開催場所 さいたまロイヤルの園

本年度2回目のケアマネサロンは、地域の7ヶ所の短期入所生活介護事業所担当者に参加いただき、事業所ごとのサービスを利用する上での確認事項や機能訓練、「売り」についてご紹介いただいた。また、平成24年の介護保険見直しの焦点となっている「お泊りデイサービス」の事業所にも参加いただいた。

緊張した雰囲気であったサロンではあったが、最初に幹事の発案で「ズバリ聞きたい相談員の本音」という「イエス」「ノー」カードで答えるゲームを行った。質問の中には「上司への実績報告はつらい」などがあり、担当者の中苦笑いを交えながら和やかにサロンが進んだ。

参加事業所の状況は、

①ベッド数

ベッド数は20床以上が4箇所、10床以上が2箇所、10床未満の施設は1箇所。

②アクティビティ・機能訓練

サービス内容については「機能訓練加算」を算定しているのは1ヶ所のみで、どの事業所も生活の中に体操や集団レク等の活動を盛り込んだり、施設行事に参加できるなど工夫している様子が窺えた。

③医療行為

ケアマネジャーの一番の関心事である医療に関する対応については、施設の体制によっても違いはあるが、胃瘻・経管栄養・在宅酸素を使用しているても利用可能な施設が多く、インシュリンを使用されている方についても、自己注射を条件に受け入れを行っている事業

所がみられた。

④特色

緊急利用や困難事例の受け入れを積極的に行い、医療機関との連携体制がしっかりとされており、体調変化に対応できることをうたっている事業所があった。生活面では女性職員が多く、同姓介助の希望にも柔軟に対応し、サービス利用に慣れない利用者に対して、交流を促すことに力を入れている事業所もあった。

このほかにも、サービス提供上で困ったことやサービス利用に際し、ケアマネジャーへの依頼についての話もしながら、有意義な時間を持つことができた。

このような会を持つことで、ケアマネジャーのみならず事業所間にも良い刺激となった。今後も地域内の連携を強化しながら円滑なサービス提供を行いたいと思う。

ご参加いただいた事業所の皆様ありがとうございます。



見沼区ケアマネサロン

「介護支援専門員と医療等の連携」～退院時の連携について～

開催日時 平成23年3月2日(水) 15時00分～16時00分

開催場所 さいたま市五反田会館

今回は、介護支援専門員協会のみでなく、見沼区にある事業所も交え協会の活動を認識していただくことも含めサロンを開催した。約36名の方に参加していただき、見沼区にある病院の相談員をお招きし、医療との連携について意見交換等を行った。

まず、東大宮病院・板垣郁子氏・さいたま記念病院・坂西健樹氏、大宮共立病院・鈴木秀子氏により、それぞれの病院の取り組み、ケアマネジャーとの関わり方について、相談員よりお話をいただいた。

東大宮病院は、ケアマネジャーが付いていない方などに対しての在宅指導時に、ご協力していただきたい。ご利用者の情報等は医療相談員を通していただきたい。さいたま記念病院は相談員の人数が少ないので、個別での対応は厳しく書類での情報提供、連携となっていることが多い。

回復期病棟から自宅に戻られる方に対しては、家屋調査などを行い少しでも多くの情報をケアマネ

ジャーに提供できるようにしている。

大宮共立病院は連携の窓口は相談員となり、事前に連絡をしていただけると早い段階で、ケアマネジャーとの関わりの時間を多く持つようにしている。相談員でもリハビリの状況等の把握が難しいこともあるので、ケアマネジャーとの連携の大切さを痛感していること。

ケアマネジャー側からは、入院時の情報提供窓口についての質問、サマリー等は退院後にも依頼できるのか、病院によってはサマリーがもらえないなど対応が違う等の質問があった。

記念病院は情報等の提供確認等は病棟とのやり取りとなる、東大宮病院は、ケース内容によって病棟のみ相談員立会いなどを行っている。大宮共立病院も同様でケースによって対応しているのとのこと。

サマリーの作成については、早めに連絡をいただければ対応可能である。医師から直接情報をいた

だきたいときは、利用者の通院時に同行することも一つの方法である。

また、独居の方の通院時、相談員の付き添いはしてもらえないかとの質問には、そのときの状況に応じての対応をすることのこと。

他にも、見沼区内での共通の情報提供用紙の作成ができないのかな時間等、活発な意見交換ができた。な時間が過ごせた。

今回のサロンは協会の枠を外し、見沼区にある居宅支援事業所の方に声をかけさせていただき、顔を合わせる機会が持て、協会の活動を理解、共感していただくことができたと思う。今後も、見沼区内で情報交換や連携ができるよう、今後も機会があれば開催したい。



大宮区・北区・西区合同サロン

「嚥下勉強会」

開催日時 平成23年3月9日(水) 18時30分～20時00分

開催場所 北区プラザノース

今回は、日本大学歯学部摂食機能療法学講座、及び南古谷病院歯科室勤務の人見涼露氏を講師にお招きし、嚥下に関するお招きし、嚥下に関する摂食機能療法を、分かりやすく教えていただいた。スライドを通して、胃ろうのメリット・デメリットや、摂食療法の流れ等を説明していただき、中でも実際の症例として内視鏡ビデオでの映像は衝撃的で！誤嚥の様子が一目瞭然！「なるほど、あのむせ方はこんな感じで誤嚥していたんだ。」と唸らされた。

臨床患者の中には、脳出血を契機に胃ろうになり、それから摂食療法を始め、寝たきりで話せない方がベッドから離れ、話せるようになり、食事も自力でできるようになる方もいらっしゃる。胃ろうが造設され

た方でも、何か希望の光が見えたような内容だった。

年度末の忙しい時節からか参加者が12名と少なかったが、次回ももっと多くの方に参加していただけるように企画したいと思う。



浦和区ケアマネサロン

「行政機関の方々と勉強会・交流会」

【震災の影響に伴い、中止】

今回は、いつもお世話になつていながら、なかなか長い時間、話をする機会がない行政機関の方々と、顔を合わせてざつとくばらんに話をすることで、お互いの立場の違いや考えを超え、業務上の悩みから介護保険制度、高齢者施策、果ては街づくりの話などもするこ

とによって、今後の連携につなげればという思いから親睦会を企画しました。しかし、みなさまご承知のように、3月11日東北地方太平洋沖地震発生。その後余震が続き、停電なども開始、首都圏の交通機関もマヒ。

まだ震災の全容も分からないなか、ケアマネサロンを開催（3月15日）することより介護支援専門員として、ご利用者の安否確認など情報収集やプラン変更などを優先すべきと判断し、

大勢の会員の参加を予定しておりましたが、直前の中止といたしました。今回の震災はわたしたちの想像の範囲を遥かに超えていました。

震災によって甚大な被害を受けられたみなさまに心よりお見舞いを申し上げます。私たち介護支援専門員としてできること。それは個人、事業者単位、協会などいろいろあると思われま

す。被災地の一日も早い復旧・復興を市民として協力しながら、介護支援専門員として、高齢者や障害者など社会的弱者が、災害時でも安全に安心して暮らし続けられるように、取り組んでゆかなければと思ひました。

施設介護支援専門員研修の報告

「22年度 第3回研修会 施設ケアマネサロン」

開催日時 平成22年12月4日（土）13時30分～16時00分

開催場所 特別養護老人ホーム 浦和しづや苑（緑区）

今回のサロンは施設職員であれば参加できるオープン形式として開催。13名（施設従事者11名・居宅系2名）が参加した。

今回は「認知症の人の食事について」をテーマに座談会方式で実施。前半では、参加者が抱える認知症高齢者の食事に関する悩みや困りごと、各施設での取り組みについて意見を交換した。後半では、北海道医療大学看護福祉学部 山田律子教授監修のパンフレット『認知症の人のおいしく豊かな食事に向けて』を

参考に、討議した内容を振り返った。まとめに、さいたま市認知症介護指導者でもある研修・ネットワーキング推進委員 副委員長（施設担当） 黒川康子氏より、ICFの考え方に基づいた認知症高齢者の理解について説明を受けた。

参加者から「認知症であってもそうでなくても、その人

の生活を見ることを忘れないようにしたい」という発言があり、今回のキーワードとして「生活」がキーワードアップした。ICFなどのツールを使用した分析から、はたしてその人の生活、その人の顔が見えてくるのか？という意見も聞かれた。

終了後のスタッフミーティングでは、今後の研修会のテーマに「生活の捉え方」を検討しようという意見が一致した。



編集後記

役員皆さん、会員の皆さん、1年間お疲れさまでした。

平成23年度も引き続きよろしくお願ひいたします！

平成23年度も「(社) やどかり出版」さんに広報誌出版をお願いしたいと思います。

今後ともよろしくお願ひいたします。

広報委員

ちょっと coffee break

「第六感」

前回投稿の会員 A さんから指名があると思いきや、会員 A さんはアミダくじを作成していた。一人ずつ順番にアミダに名前を記入していく、私の順番となる。ふと、記入しようと思った時、何か当たる気がした。思わず、決まる前に、「今回の締め切りは、何日ですか?」と聞いてしまった。案の定、私に決まる。

第六感 (sixth sense) とは、基本的に、五感以外のものでも五感を超えるものを指しており、理屈では説明しがたい、鋭くものごとの本質をつかむ心の働きのことである。

第六感という言葉は、基本的に、五感を超えるもので、ものごとの本質をつかむ心の働きのことを指している。類義語として、インスピレーション、勘、直感、靈感、などがある。超感覚的知覚 (Extrasensory perception、ESP、超能力の一種) が類義語として扱われることもある。

ただし、現代では「人には五つの感覚、知覚しか存在しない」とは理解されておらず、平衡感覚が第六番目の感覚として位置づけられていることがあるので、

その文脈では「第六感」という表現が平衡感覚を指していることもある。

心とは、非常に多義的・抽象的な概念であり文脈に応じて多様な意味をもつ言葉であり、人間 (や生き物) の精神的な作用や、それのもとになるものなどを指し、感情、意志、知識、思いやり、情などを含みつつ指している。(広辞苑より)

例えば、事務所の同僚と「〇〇さんは、最近どうなの?」「連絡がないけど?」と話題になった時、不思議にも電話のベルが鳴り、噂していた方からの連絡があったり、何か胸騒ぎを感じ、ふと、思い起こした方に連絡を入れると、状況に変化があったりする。

皆さんも、そのような経験はありませんか?

私達は、色々な利用者様やご家族様との出会いがあります。理屈では説明しがたいことも多々あると思いますので、ものごとの本質をつかむ心を磨いて行きたいと思います。

あ と が き

平成 23 年度 「さいたま市介護支援員専門員協会 通常総会、基調講演」 開催のご案内

日時 平成 23 年 5 月 28 日 (土)
13 時 45 分～ 通常総会
15 時 00 分～ 基調講演 講演者 H i B i K i 氏
場所 岩槻駅前東口コミュニティセンター 3F ワツルーム A

事務局より

事務局の名称が変更になりました

新 (社福) さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター (平成 23 年度より)

旧 (財) さいたま市在宅ケアサービス公社

*電話番号等に変更はありません

会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会・退会希望の場合は事務局までご連絡ください。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(社福) さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター

電話番号 048-645-7470

FAX 048-645-7500

リニューアルしたので見てくださーい!!

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>